



Handbook for Physical Therapy Teachers

by

Publication Committee ; R. Dickinson, H. L. Dervitz, H. M. Meida.

このハンドブックは、アメリカ PT 協会と、国の後援により、1958 年から 1967 年にかけて、毎年ひらかれた教育研究会から、生まれた。

緒言

第 I 部 理学療法教育の基礎 (1 章から 6 章) : 理学療法教育の理念、理学療法における教育プログラムの各相 (Phases)、及び教育を大学で行うことの意味、理学療法教育にたずさわる人の分類と資格、及び責任、臨床教育施設の撰択とプログラムの確立。

第 II 部 理学療法における教育プロセス (7 章から 14 章) : 学生の反

応、評価プロセス、学習プロセス、教育目的、教育基準、学習における知的・情緒的・技術的なものの開発、学習計画、学習経験の組立、効果的な学習経験の基準、教育の評価、教育プログラムの補充。

他に、図表、教育目的に達するための基準サンプル、文献。

以上の内容の中で、臨床教育の重要性が強調されている。本書の緒言に、「現在 (1967)、アメリカ PT 協会会員の 5 分の 1 (約 2,000 人) が、理学療法教育に、何らかの形で参加している。しかし、理学療法教育に関する本は、出版されていない。

したがって、本書が最初のものの一つである。このハンドブックは、理学療法ばかりでなく、他の関連分野の人々にも、有益であろう」と書かれている。

(American Physical Therapy Association* 1967, 314 pp., \$3.50)

* アメリカ PT 協会の出版物は、直接申込むと、1, 2 カ月 (船便) で入手できる。

本代金 (銀行小切手) 送付先 :
American Physical Therapy Association 1156 15 Th Street,
N. W. Washington, D.C. 20005
U. S. A.

(リハビリテーション学院、
理学療法士 田村美枝子)



おもちゃセミナー

—— 叙情性と科学性への招待 —— 戸田盛和 著

この「おもちゃセミナー」を手にして、今迄私達が子供の頃手にしたおもちゃ、例 「だるま落とし」「空気鉄砲」等、又日頃 OT 室にみかけるおもちゃのたぐいであるが、それが非常に科学性に富んだ目で分析され、作り方の機序、応用までのべられている。

おもちゃには、種々の楽しみ方があるが、目でみているだけで楽しませてくれるもの、手にして動かしてみもの、又その歴史に、情緒に、その機構について調べるとおもちゃになお一層愛着がわいてくる この「おもちゃセミナー」では、その様な動くおもちゃを遊びや生活の道具

と関係づけたり種々の分野からとらえられている。中でもおもちゃの科学的論理には非常におもしろさがある。内容としては、24 のテーマからなり各々独立したテーマにて、色々なおもちゃの特徴があげられている。例、「弥次郎兵衛とアルキメデス」「蛙のぶらんこ」「磁石の利用」「ゴムひもの動力」「玩具と造形」「光線の遊び」等である。中でも「だるま落とし」の項においては、だるま算法を利用し、力学的には慣性の法則を具現化したもので、ただ速く打てば良いというわけではなく、輪にすばやく力を加えて、輪が高速で短時間に抜ければ効果は小さく、だる

まはほとんど衝撃を感じないで平気であることになる。……「静止しているものは他から力を加えられない限り、静止の状態を続ける」……従って 5 個の輪をもつだるまをうまく降せる確率は 50% 位いで $\left(\frac{1}{2}\right)^5 = \frac{1}{32}$ といわれている。その他、OT 室でも作れそうな簡単なおもちゃの紹介、おもちゃにまつわる「ことわざ」伝説まで書かれていて楽しい書物である。

(日本評論社。A 5 版。296 ページ。
1000 円)
(神奈川総合リハビリテーションセンター、作業療法士 佐藤馨)